

プログラム番号	06013
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科		
②学長名	鈴木 章夫		
③所在地	〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務部留学生課・専門職員	
	担当者氏名	佐藤まき子	e-mailアドレス iss.adm@tmd.ac.jp
	電話・FAX番号	電話：03-5283-5856	FAX：03-5283-5891
⑤ホームページURL	<a href="http://www.tmd.ac.jp/">http://www.tmd.ac.jp/</a>		
⑥大学院在学留学生数	196人(うち、国費留学生 86人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	先端口腔科学国際プログラム
②プログラムの形態	大学院博士課程(4年間)
③実施研究科・専攻	大学院医歯学総合研究科(歯学系)研究科 口腔機能再構築学系専攻
	(所在地) 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45
④連携大学・研究科・専攻名	大学院医歯学総合研究科(歯学系)研究科 顎顔面顎部機能再建学系専攻、生体支持組織学系専攻
⑤受入れ学生数	8人(うち研究留学生優先配置人数：5人) (うち日本人学生数：0人)
⑥担当教員数	合計 209人(うち専任：136人、兼任：27人、非常勤：46人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院医歯学総合研究科・研究科長
	研究科長名 大野喜久郎

### 【3. プログラムの内容】

#### 教育目標

口腔科学分野における先端的、学際的かつ国際的な研究で世界をリードできる研究者と、研究心旺盛な高度専門歯科医療職業人の育成を目指す。

#### 教育内容

##### 【1年次10月～12月】

##### 1) オリエンテーション

本学留学生センターが主催する10月入学留学生対象のオリエンテーションに加えて、本プログラム入学者対象のオリエンテーションを実施し、大学院講義科目の選択・履修方法、「3人指導体制」等研究指導に関するアドバイス、学位申請方法等について説明を行う。

##### 2) 初期研究研修プログラム（主に講義形式による）

主なテーマ：研究の進め方、研究と倫理と司法、文献検索方法、感染予防の理論と実際、機器計測・分析の進め方、感染予防の理論と実際、動物実験の進め方、研究における統計、遺伝子研究、遺伝情報処理、研究発表・論文作成

##### 【1年次1月～9月】

##### 1) 大学院講義

医歯学総合研究科授業科目の中から、研究テーマに密接に関連する30単位以上の授業科目を指導教員と相談のうえ選択し、履修する。

##### 2) 研究テーマの設定と基本的研究技能の獲得

研究テーマは所属する分野の指導教員と十分な協議のうえ決定し、研究遂行に必要な知識、技能を1年次終了までに修得する。

##### 【2年次10月～3年次6月】

設定したテーマで研究を遂行する。研究指導は「3人指導体制」による。

##### 【3年次7月～9月】

研究の成果をまとめて、論文の作成と投稿の準備をする。

3年次終了を目処に指導教員と相談のうえ、国際学術雑誌に投稿する。

##### 【4年次】

学術雑誌への投稿の結果次第では、必要な追加実験等を行う。

12月を目処に学位論文審査の準備を開始する。

##### 1月～6月：学位審査・最終試験

学位論文の進み具合によっては指導教員と相談のうえ、新たなテーマでの実験や臨床修練を行う。

年1回、歯学教育セミナー（公開）を開催し、本プログラム在籍者の参加を求めるとともに、修了までに必ず1回は発表を行うようにする。

#### 教育評価

##### 博士課程修了要件

1. 大学院授業科目30単位以上の修得
2. 博士論文の審査
3. 大学院博士課程最終試験

以上のいずれにも合格していることが必要である。

#### ○教育・指導体制

本学大学院歯学系は中期目標として大学院生への研究指導を充実させるために「歯学系大学院学生

3人指導体制」を掲げ、平成18年度より試行が始まっている。「3人指導体制」では学生が所属する分野長である主指導教員と、他分野の講師以上の教員2人の副指導教員が「指導グループ」をつくり、半年から1年ごとに研究計画書に基づき研究の進行状況についてチェックし、必要な助言を与える。

本プログラム在籍留学生に「3人指導体制」への参加を促し、専攻分野を超えた複数の教員から研究指導を受けることで、多角的な視野から研究心の涵養を図る。

### ○使用言語

教育・指導は英語による。

ただし、希望者に対して本学留学生センターが実施している日本語教育プログラムの中から、各自のニーズと日本語レベルに合ったコースを提供することが可能である。なお、英語教育に関しては十分な英語運用能力を有する学生を本プログラムに受入れることを条件としているが、英語による研究発表や科学論文作成に必要な英語能力獲得のために、在学期間中に留学生センターが実施する英語講習を必要に応じて受講する。

### ○募集方法、募集対象国、学内選考方法等

東南アジア、東アジアにおける学術交流協定締結校を中心に約1年前から募集を行う。協定校の学部長と大学院教育担当副学部長相当の教員に、候補者の推薦を依頼するが、本学教員が研究打合せ等で協定校を訪問する際には、候補者との面談を積極的に行い、学内選考委員会に面談の結果を伝える。学内選考は主として選考委員会での書類選考によるが、推薦順位の決定にあたっては、上記の面談の結果に加えて、以下の点を特に考慮する。1) 履修済みの学士・修士課程での成績（成績表、表彰の有無、修士論文の質の検証など）が優秀である。2) 在籍大学における立場、学位を取得して帰国した後に教員として教育研究に携わる可能性が高い。3) 候補者と指導予定教員との間で研究内容について合意しており、指導予定教員に受入れへの熱意がある。4) 英語能力についてはTOEFLスコアの提示を求めるとともに、電話や電子メールでの通信を通して、十分な英語運用能力を有していることを指導予定教員が確認している。

### ○修了後に想定される進路、修了者に期待できる効果及びフォローアップ体制

本プログラムには、修了後歯科大学の教員になるなど、母国の歯科医療向上に広く貢献できる可能性が高い者を優先して入学させるが、本プログラム修了者は教育・医療機関だけでなく、産業界も含め歯科医療を支えるさまざまな領域で、指導的役割を担う人材となることが期待される。本プログラムが人的ネットワークの形成を目指すことから、情報技術を使って修了者に本学の情報を提供するとともに、インターネットにより修了者自身や各国・地域の最新の情報を収集、管理し、海外プロジェクトの企画・立案に資することで、本学大学院の国際展開を促す。

### ○本プログラムの点検・評価の体制

留学期間中を通して、留学生はポルトフォリオに研究の進捗状況、生活状況等を記載し、指導教員とチューターが定期的にポルトフォリオをチェックし、フィードバックを行う。年1回、本プログラム在籍者のポルトフォリオを統括委員会がすべて評価することで、プログラムの点検を行い、問題が見つかった場合は、速やかに必要な改善方策を取る。

### ○その他

現在本学が実施している21世紀COEプログラム「歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア」で、特別選抜大学院生（スーパースチューデント）として採用されている学生には、多くの優秀な外国人留学生が含まれている。本プログラムに入学させる外国人留学生の選抜にあたっては、スーパースチューデントの選考基準も念頭に入れて行き、COEプログラムへの参加を視野に入れる。